

科目番号	52028	分類	実践助産学	履修者	高度実践助産コース	学年	1-2				
科目名	地域助産学実習 (Midwifery Practice in the Community)						配当セクター				
							通年				
担当者	○平出美栄子、橋本 美幸 関屋 伸子、小島奈都子	区分	助産師免許取得プログラム	必修		単位	6	時間数	270		
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連					
1. 実習のねらい 助産所において実践されている助産ケアを学ぶ。また、助産所の経営管理の実際をとおり、開業権を生かしたこれからの助産師の働き方について考察する。さらに助産所・保健所と連携する行政施設、医療施設、民間団体、自助グループ等の活動を知り、母子および家族を支援する地域母子保健システムを総合的に理解する。						○	1.自律して自然分娩の支援ができる能力				
2. 実習目標 1) 助産所における妊産婦・新生児に対する生理的なプロセスの維持・促進・逸脱予防の助産ケアについて、その根拠を説明し、一部が実施できる。 2) 助産所で実施されている健康教育クラスの特徴を理解し、運営に参加できる。 3) 助産業務の安全性(判断基準と救急支援システム)を理解し、効果的な医療連携システムについて考察できる。 4) 助産所と連携する各施設・団体の活動の実際を理解できる。 5) 保健所における母子保健事業・地域医療連携の実際を理解し、助産師の役割を考察する。						○	2.院内・院外助産システムを担うことができる能力				
						○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力				
						○	4.周産期の救急時に対応できる能力				
						○	5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力				
							6.研究・開発能力				
							7.倫理的意思決定能力				
3. 実習場所と時期 1) 実習期間：助産所 1～2年次 3月～4月 保健所 2年次 5月 2) 実習場所：助産所 いなだ助産院、さくらバースハウス、とわ助産院、矢島助産院、目白助産院 森田助産院など(実習施設の変更あり) 保健所 目黒区、みなと区内の保健所・保健センター											
4. 実習方法 1) 病院での実習を振り返り、自己の課題を明確にして実習準備を整える。 2) 実習施設の概要について、事前オリエンテーションを実施する。実習中は、学生が主体的に助産院指導者と相談し、口頭/記録物によって日々の実習スケジュールを調整、決定する。 3) 指導者と「報告・連絡・相談」を行い、チームの一員として主体的に対象の助産ケアを実施する。 4) カンファレンス： 中間カンファレンス(実習3週目)により、学習成果から実習目標の方向性を調整する。 終了時カンファレンスにより(実習6週目)により、実習目標の達成度について討議する。 5) 終了後学内報告会により、学生間で学びを共有し、意見交換を行う。 6) 助産所・保健所実習終了後、各テーマにそって課題レポートをまとめ学びを深める。											
事前・事後学習	事前学習：前期に開講された授業内容を復習しておくこと。自己課題についての文献学習を行うこと。 事後学習：自己学習ノートを作成し、実習における学び、残された自己の課題を明確にし、まとめること。 単位と時間数に応じた学習時間(学生便覧参照)を参考に取り組むこと。										
評価の方法	1. 助産所課題レポート 30%(助産所)、保健所課題レポート10% 2. 実習への取り組み(記録・出席日数など) 20% 3. 実習評価表 40%(助産所) フィードバックは適宜行う。										
参考図書・資料等	○産婦人科診療ガイドライン 産科編 2014：日本産婦人科学会/日本産婦人科医会、日本産婦人科学会、2014。 ○エビデンスに基づくガイドライン—妊娠期・分娩期 2016：日本助産学会誌、日本助産学会、2016。 ○助産所開業マニュアル 2013年度版：日本助産師会出版、2013。										
備考	事前学習 1. 各助産所のホームページから、実習施設の理念、具体的活動を理解しておく。 2. 自己の目標と課題について考えて実習に臨むこと。 3. 実習全般に関する相談は、宮崎・橋本まで連絡する。 オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。										